



2020年9月25日

各 位

会 社 名 ENEOSホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 大田 勝幸
コード番号 5020 東証・名証第1部
問合せ先 財務IR部IRグループマネージャー
井上 亮
(電話番号 03-6257-7075)

当社子会社による中国石油国際事業日本株式会社との協業継続に係る最終合意について

当社子会社のENEOS株式会社（社長：大田勝幸、以下「ENEOS」）は、中国石油国際事業有限公司（PetroChina International Co., Ltd.、法人代表：田景恵、以下「PCI」）傘下の日本法人である中国石油国際事業日本株式会社（PetroChina International (Japan) Co., Ltd.、社長：万軍勇、以下「PCJP」）との合併会社である大阪国際石油精製株式会社（社長：竹下嘉昭、以下「OIREC」）が運営する製油所を、現在の大阪製油所（所長：田中秀明）から、2020年12月に千葉製油所（所長：杉本高弘）に変更の上、合併事業を継続することについてPCJPと2020年9月23日付で最終合意に至りましたので、お知らせいたします。

ENEOSとPCJPは、日本国内の石油需要の構造的減少が見込まれる一方、アジア・太平洋地域において今後石油製品需要が着実に増加し、ビジネスチャンスが拡大するとの見通しから、2010年10月にOIRECを設立の上、大阪製油所の運営を開始しました。

現行の合併契約が2020年9月末に期限を迎えることを踏まえ、両社は、2019年7月に「基本合意書」を締結し、ENEOSの製油所運営能力と、PCIグループの優れた製品マーケティング能力を相互に有効活用する戦略的枠組みを維持・存続させるべきとの認識の下、今後の協業のあり方について協議してまいりました。

当社グループ各製油所の機能・特質をはじめ多方面から検討を行った結果、国内への安定供給体制の維持という観点を踏まえ、ENEOSの製油所の中では輸出能力が高い千葉製油所を活用することが、アジア・太平洋地域におけるエネルギー安定供給の基盤強化を目指すOIRECの事業のさらなる発展に最も資するとの結論に至り、今般の最終合意に至ったものです。

合併事業を継続するにあたり、ENEOSは大阪製油所をOIRECより会社分割によって取得し、新たに協業する千葉製油所を、同じく会社分割によってENEOSよりOIRECへ承継いたします。なお、大阪製油所は、2020年10月に精製機能を停止し、アスファルト発電設備を運営する事業所といたします。

今後も両社グループは、千葉製油所における安全操業・安定供給を継続していくとともに、これまでに培った強固な協力関係のさらなる発展に努めてまいります。

なお、本件による2021年3月期連結業績への影響は現在精査中であり、開示すべき事項が生じた場合は、速やかに公表いたします。

以 上

1. 対象資産の概要

(1) 大阪製油所 (OIRECからENEOSへ承継)

- ア. 効力発生日 (実行日) 2020年11月1日予定
イ. 対象資産 大阪製油所土地・設備等

(2) 千葉製油所 (ENEOSからOIRECへ承継)

- ア. 効力発生日 (実行日) 2020年12月1日予定
イ. 対象資産 千葉製油所土地・設備等

2. 当事会社の概要

<ENEOS株式会社の概要>

商号	ENEOS株式会社 (ENEOS Corporation)
所在地	東京都千代田区大手町一丁目1番2号
設立	1888年5月
社長	大田 勝幸
出資比率	ENEOSホールディングス 100%

<大阪国際石油精製株式会社の概要>

商号	大阪国際石油精製株式会社 (Osaka International Refining Company, Limited 略称: OIREC)
現所在地	大阪府高石市高砂二丁目1番地
新所在地	千葉県市原市千種海岸1番地 ※2020年12月1日~(予定)
設立	2010年10月
社長	竹下 嘉昭
出資比率	ENEOS 51%、PCJP 49%

<大阪製油所の概要>

所在地	大阪府高石市高砂二丁目1番地
操業開始	1971年1月
所長	田中 秀明
従業員	244名(2020年4月30日時点)
敷地面積	129万m ²
原油処理能力	115,000 バレル/日

<千葉製油所の概要>

所在地	千葉県市原市千種海岸1番地
操業開始	1968年10月
所長	杉本 高弘
従業員	372名(2020年4月30日時点)
敷地面積	144万m ²
原油処理能力	129,000 バレル/日

<大阪国際石油精製（OIREC）の資本関係図>

